

チャン・グンソクさんも闘病する甲状腺がん 成人女性に多発、大半が低リスクの微小がん

韓国の人気俳優チャン・グンソクさん（37）が昨年10月、甲状腺がんと診断され、今年5月に手術を受けたと自身のユーチューブで明かしました。

グンソクさんは健康管理のため毎日運動し、毎年健康診断を受けていました。今回は甲状腺がんの症状や治療について解説します。

甲状腺がんは、甲状腺の細胞が悪性化したものです。甲状腺は首の正面ののど仏のすぐ下にあるチョウが羽を広げたような形の大きさ4~5センチの内分泌臓器です。体の新陳代謝やエネルギー代謝をつかさどる甲状腺ホルモンを分泌しています。

甲状腺の後ろには気管や食道、声を出す際に声帯を調整する神経、横には脳へ血液を送る太い血管があり、重要な臓器に取り囲まれたところにできるがんです。

甲状腺がんは年間2万人ほどの日本人が罹患（りかん）しています。特徴は女性に圧倒的に多く、男性の5~6倍です。発症は40~60代に多くなっています。

最近40年間に日本の甲状腺がん患者数が6倍に増えました。こうした現象は世界的傾向で、グンソクさんの韓国ではオプションで甲状腺がん検診を受けられることもあり、15倍に増加しています。

幸い、亡くなる人は増えておらず、日本でも年間2千人弱です。

甲状腺がんの発症リスクを高めるのは放射線被曝（ひばく）、ヨード不足、そして遺伝的要因です。

甲状腺がんは、その95%を占める予後の良い分化がんと、予後は非常に悪いが頻度が1%以下の未分化がん、甲状腺内の特殊な細胞ががん化した髄様がんに大きく分けられます。

甲状腺がんのほとんどを占める分化がんの5年相対生存率は95%以上と、他のがんに比べて非常に良好です。

■頸部の腫瘍に注意

初発症状はほとんどが頸部（けいぶ）の腫瘍（しゅりゅう）です。超音波で精査して、がんが疑われる場合、細い針で腫瘍を突いて細胞を採って調べます（細胞診）。

まれに、声がかすれたり（嗄声＝させい）、食べ物が飲み込みにくくなって、初めて受診する患者さんがおられます。まわりの神経や食道にがんが浸潤すると出る症状で、こうなると、かなり大きな手術が必要になります。術後の生活の質も落ちます。頸部の腫瘍に気づいたら早めに耳鼻咽喉科や頭頸部・甲状腺の専門医を受診しましょう。

なぜ、甲状腺がんが急に増えたのでしょうか？ 実は検診などで甲状腺の超音波検査をするようになって甲状腺がんだと分かるケースが増えているからです。

成人女性が超音波と細胞診による甲状腺がん検診を受けると約3%に甲状腺がんを認め、そのうち85%が1センチ以下のがん（微小がん）です。

実際、ここ30年ほどの間に増加した甲状腺がんのほとんどが低リスクの微小がんです。

がんと診断がついたら全員手術が必要でしょうか？ 最近の研究では低リスクの微小がんでは、5年間経過観察してがんが大きくなったり、リンパ節に転移したりして、手術が必要になる人は数%です。その時点で手術をしても、再発や予後にまったく影響はありません。

甲状腺の手術では、術後に嗄声や甲状腺や副甲状腺のホルモン不足になることが数%あります。こうしたことを考えると、低リスクの微小がんでは積極的経過観察も一つの重要な選択肢です。

ただ、その判断とフォローは難しいので、甲状腺の専門医にご相談ください。